

化学物質と環境に関するゲーム教材アイデアシート

名前 環境太郎

ゲームの名称	「つくろう！ポンポコ理想郷」
面白さのポイント	化学物質による環境リスクと利便性（利益）の板ばさみ感覚
ゲームのスタイル	民話調「村おこし」シミュレーションゲーム
プレイヤーの立場	たぬき
プレイヤーの目的	村を発展させる
プレイヤーの主な行動	かっぱとてんぐにみつぎものをして、暮らしを便利にし、作物を育て、村づくりをする。
主な設定など	かっぱにみつぎものをする、田畑に水を運んでくれ、自然が豊かになる。 てんぐにみつぎものをする、魔法の風を吹かしてくれて、暮らしが便利になる。 暮らしが便利になると、村が大きくなる。魔法の風を使いすぎると、自然環境が悪化して、凶作になったり、たぬきたちは村を出て行ってしまう。
化学物質・環境・リスクとの関わり	かっぱが自然環境、てんぐが化学物質を表す。 化学物質による環境リスクと利便性（利益）が一体であり、バランスをとる重要性を遊びながら理解する。
想定したユーザー、使い方	小学校高学年～中学生が、短い時間で繰り返し遊べるようにする。

名前：環境太郎

ゲームイメージの説明（具体的に）

キャラクターの設定

たぬき：何もない野原に理想の村をつくることを決心した。てんぐとかっぱにみつぎものをしながら、作物を育てる。

実は人間の象徴

かっぱ：みつぎものをもらって、田畑に水を運ぶ。効果はすぐには現れないが、自然を豊かにする働きがある。

実は自然環境の象徴

てんぐ：みつぎものをもらって魔法の風を吹かせ、暮らしを便利にしたり、米をたくさん実らせる。一気に効果が出て村は大きくなるが、自然に余力がないと作物を育てるのに必要な水が不足してしまう。

実は化学物質の象徴

画面の構成

村：食料を分配して村づくりを行う。

人口に対して十分な食料があると村は発展するが、食料がなくなると人口が減り村はさびれる。

田畑：かっぱ（水）とてんぐ（魔法の風）にみつぎものをして、作物を育てたり、暮らしを便利にする。

エンディング：9年間の村づくりの結果、村が様々に発展する。

人口、自然環境及び生活の利便性によって得点を表示する。

最後に、今後100年予想される村の成長パターンを提示する。

(別紙：画面イメージの例) 注) 画面イメージは絵コンテ(手書き)でも可

